



小学校における体育教育を充実させる大学院教育プログラムの検討 一学級担任の体育授業力向上を支援する専門教員の養成を日指してー

金高宏文, 森司朗, 浜田幸史, 梶ちか子, 加治裕文(鹿屋体育大学), 伊地知 裕, 馬場智也, 中村康平(鹿屋市立寿北小学校)

本事業の背景と目的

- 本事業の取り組みは、2期スポーツ基本計画(2017年3月答申)における、「国は、地方公共団体等と連携し、小学校における体育の専科教員の導入を促進するとともに、運動が苦手や意欲的でない児童生徒や障害のある児童生徒が運動に参画できるよう研修を充実するなど、教員採用や研修の改善を通じ、学校体育に係る指導力の向上を図る。」といったことを背景としています。
- しかし、小学校における体育専科教員の配置は全学校数の4.7%(平成28年度)に留まっており、外部指導員の配置割合も8.5%(平成25年度)と少ない状況にあります。
- 本事業ではこのような現状を打開するために、中学校教員(保健体育)や中学校教諭一種免許状取得者(保健体育)が小学校において、体育専科指導や体育学習コーディネイトが行える大学院教育プログラムの立案を目指し、平成29年から平成31年度の3年計画で取り組むものです。
- なお、本事業は平成31年度にスポーツ庁からの受託した「体育・スポーツ資質向上等推進事業」を学内的に支援したものと なっています。
- ここでは、これまでの取り組みとともに、31年度取り組みについて報告します。

これまでの成果と平成31年度の取組み

- 平成29年度の鹿屋市の小学校における調査より、小学校の体育授業において約7割の教員が苦勞を抱えていることが明らかとなった。
- 平成30年度は、そのような課題を解決するために、「**体育学を専門的に学ぶ大学院生が小学校の体育授業の授業補助者として効果的に機能できるか**」について、介入研究を通して検討した。その結果、大学院生が目指す資質・能力として、教材開発・提案力が重要なことが再確認された。同時に、学校現場では大学院生は体育学習・授業の支援者・補助者の立場として「助教(アシスタント・ティーチャー)」として入ることが効果的であり、受容されることが明らかになった。

大学院コープ実習における教育プログラムの検討: 目指す資質・能力

- 体育教育を充実させる人材は、小学校の学級担任からは...
- 各単元における学習指導要領の内容を理解し、伝えることができること
 - 運動が苦手な児童に関しても個人に合わせた指導ができること
 - 教材・教具の開発ができること
 - 教材や教具についての知識や情報を有していること
 - 体育の授業におけるアクティブラーニングの方法を理解していること
 - 単元ごとの示範(デモンストレーション)を示すことができること
- また、体育学習のコーディネーターに求める資質・能力に関して、小学校の学級担任からは「児童への理解」「児童への指導」「人間性」「社会性」「学習指導要領の実施」「安全管理危機管理」さらに、**体育専科教員**からは担うべき役割として...
- 学級担任の授業力の向上
 - 児童の技能・体力の向上...達成感・成就感を児童に提供できること
 - 教材や教具の開発および情報提供
 - 学級担任とのコミュニケーション
 - 体育授業の評価
 - 体育知識の普及
- つまり体育教育を充実させる人材は、人間性・社会性が優れており、児童の体力向上や学級担任とコミュニケーションに優れていること。また、授業に関しては教材や教具などを工夫して創作できる能力が必要であると考えられる。これまでの体育専科教員という考え方は体育の授業を任せることの出来る人材というイメージであったが実際求められているのは授業の支援を行い必要の際に援助を行うことができる人材であることが分かった。

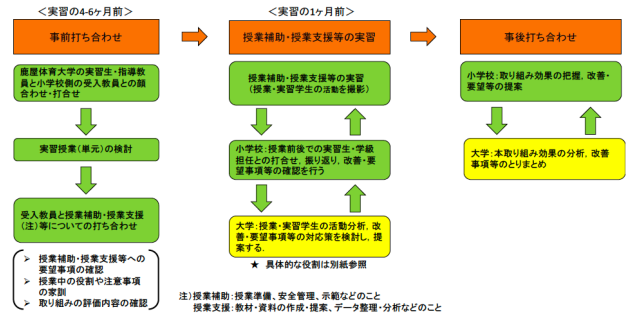
<3年間の取り組みをまとめた報告書>

- 平成31年度は、平成29年度に作成した「大学院生が小学校における体育学習・授業の支援者・補助者(「助教(アシスタント・ティーチャー)(仮称)」)となりうる教育プログラム案」を、実際の大学院教育の授業科目(コープ実習)において単位として認定する中で、大学院生(1名)に試行しました。そして、その教育プログラム案の実効性や継続可能性を検討しました。
- 右半分は平成31年度の取り組みやその成果等について紹介しています。



教育プログラム(コープ実習)の実際

● コープ実習までの打合せの流れ



● コープ実習での指導補助の概要



31年度の成果と課題

- 平成31年度の取り組みから、大学院生が目指す資質・能力として、教材開発・提案力が重要なことを再確認しました。
- 同時に、授業における実技指導のための示範力や観察力を大学での演習等で更に高めて実習に臨むこと
- 学校現場での大学の指導支援的な大学院生の指導に対するコーチング、帰校後の学修支援、補助映像を見ながらの振り返りコーチングが極めて重要で、有効なことが明らかになりました。
- 次年度以降の取り組みに向け、有益な示唆が得られ、本教育プログラムが今後も継続できることを確認しました。

【謝辞】本事業は、鹿屋市教育委員会及び鹿屋市立寿北小学校の全面的な協力を得て行われたものです。ここに記して感謝申し上げます。